2020年度 長崎大学大学院多文化社会学研究科 入試概要

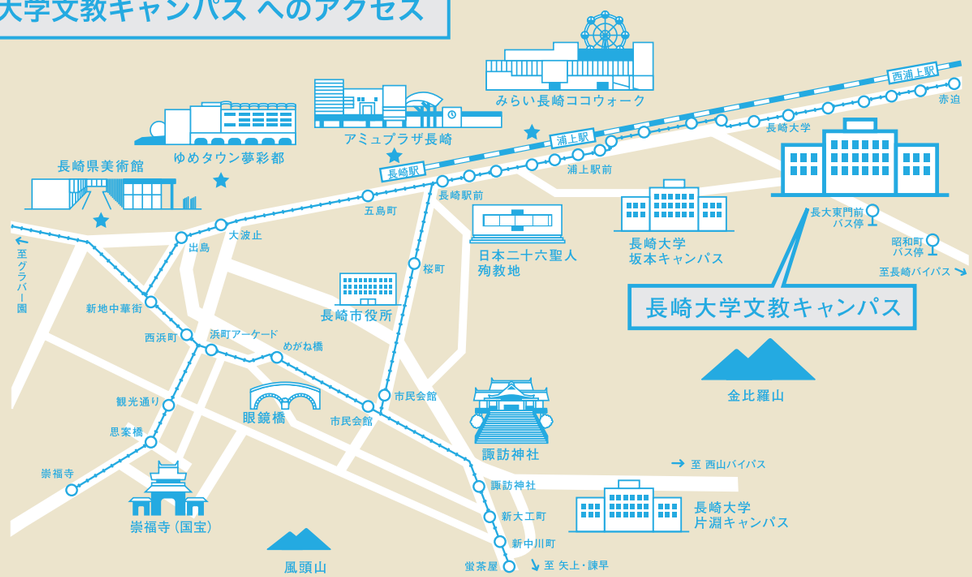
出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。
指導教員の連絡先がわからない場合は、6ページのQRコードからご確認ください。

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	10名	修士（学術） Master of Arts

	2019年7月期募集		2020年2月期募集
出願期間	2019年5月27日（月）～5月31日（金）17:00		2019年12月9日（月）～12月13日（金）17:00
入学試験日時	2019年7月27日（土）		2020年2月18日（火）
	9:30～11:30	120分	専門科目（人文社会科学系）
	12:30～14:00	90分	外国語（英語）　※外国人留学生の場合は「日本語」
	14:30～	―	面　接

2019年6月現在，文部科学省へ多文化社会学研究科（博士後期課程）の設置認可申請（2020年4月開設）を行っており，認可された場合，多文化社会学研究科（修士課程）は2020年4月から多文化社会学研究科（博士前期課程）へ変更となります。※設置は予定であり内容に変更がある場合があります。

長崎大学文教キャンパス へのアクセス



JRをご利用の場合

JR長崎本線「浦上駅」下車、その後、以下の路面電車もしくはバス利用

■浦上駅から路面電車をご利用の場合
「浦上駅前」から「赤迫（あかさこ）」行き乗車
「長崎大学」で下車（所要時間 / 約10分）料金130円

■浦上駅からバスをご利用の場合
「浦上駅前」から長崎バス1番系統「溝川」・「上床」・「上横尾」行き乗車
「長崎大学前」で下車（所要時間 / 約10分）料金160円

高速バスをご利用の場合

各地より浦上経由長崎方面行き乗車「昭和町（しょうわまち）」で下車、
その後、徒歩で長崎大学東門まで約15分あるいは長崎大学正門まで約20分

航空機をご利用の場合

長崎空港（大村市）4番乗り場から空港リムジンバス乗車
片道1,000円
長崎県営バス
■「試験場前・諫早インター・浦上経由 長崎駅前」行き乗車
「長大東門前（ちょうだいひがしもんまえ）」で下車
（所要時間 / 約40分）
■「試験場前・諫早インター・浦上経由・住吉経由 長崎駅前」行き乗車
「長崎大学前」で下車（所要時間 / 約45分）

国立大学法人 長崎大学 NAGASAKI UNIVERSITY

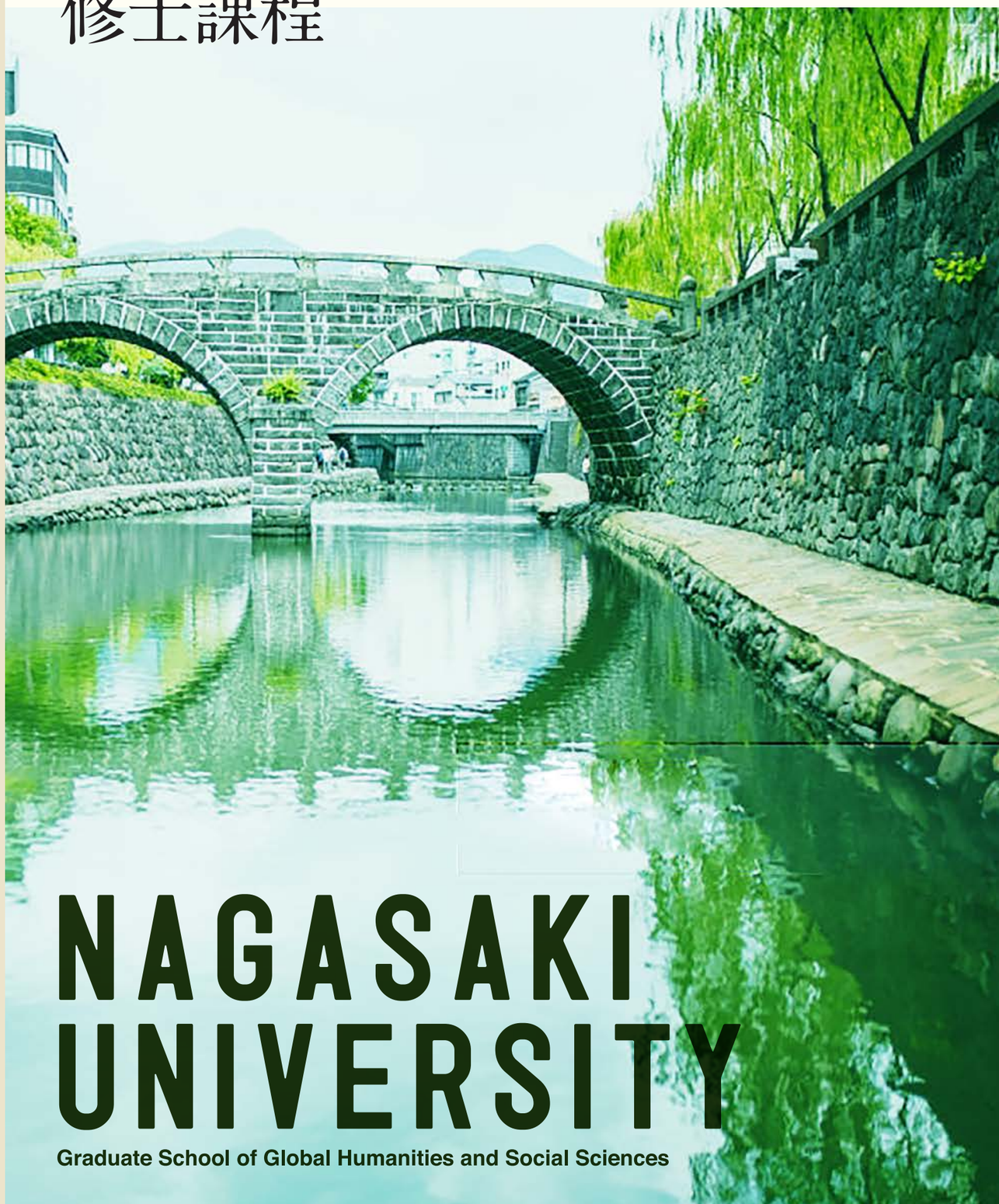
長崎大学文教地区事務部学務課（多文化社会学部・多文化社会学研究科担当）
〒852-8521　長崎県長崎市文教町1-14　TEL.095-819-2975
Mail：hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp　http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学 多文化社会学研究科 スマホサイトへ

2019年7月発行

長崎大学大学院

多文化社会学研究科 修士課程



NAGASAKI UNIVERSITY

Graduate School of Global Humanities and Social Sciences

ごあいさつ

研究科長　首藤 明和

長崎大学大学院多文化社会学研究科（修士課程）が2018年４月に開学しました。本研究科では、多文化社会学部の課題を発展的に継承し、学内では言語教育研究センターや核兵器廃絶研究センター、学外では国立歴史民俗博物館や公益財団法人東洋文庫などと連携し、人文社会系が本来有する超域的かつ俯瞰的な専門知の徹底的な追求を通じて、新たな学問としての「多文化社会学」を創生します。この「多文化社会学」の修得を通じて、自らの専門性を持つだけでなく、既存の専門領域を大胆に――存在論的、認識論的、方法論的に――越境します。そして、無限の可能性を秘めた地平のなかで、人と知を繋ぎ、社会が抱える問題を発見・説明・予測し、解決の道筋を拓いていきます。

そもそも21世紀社会では、紛争や対立、抑圧や排除の問題はもちろんのこと、環境や資源、生命倫理や人口知能の問題等々において、文化や社会にかかわることがらが、他のことがら――政治、経済、宗教、科学、技術、心理、身体、自然等々――と、さまざまに錯綜しています。こうした「多文化社会的問題」は、既存の学問領域に止まらないアプローチを必要としています。たとえば福島原発事故をみても、科学や技術からの単独のアプローチでは、十分な解決の道筋を示し得ないのは明らかです。

「多文化社会的問題」の日常化や遍在化は、これまでの学問的分業による説明や解決を困難にしています。それゆえ「多文化社会学」では、世界の多様性を前提としつつ、比較の視点から、問題と解決策との間の多様な関係を発見、分析し、選択における多様な解を拓くことを目指します。今日の学問が抱える困難に謙虚に向き合いつつも、そうであるからこそ、よりチャレンジングに、「多文化社会学」を通じて世界を展望していく志を、高らかに掲げたいと思います。

みなさんが意気に感じて「多文化社会学」の扉を叩いてくれることを、教職員一同、楽しみに待っております。

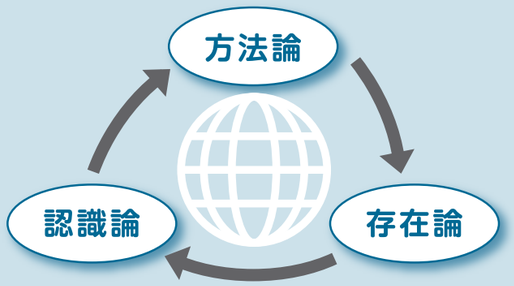
■ 教育理念・目標

長崎大学は、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を掲げ、これを実現するために「現場に強い、危機に強い、行動力のある」人材を育成し、21世紀の知的基盤社会をリードすることを目指しています。そのための重要教育目標の一つは、グローバル化時代の国際的な現場でリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することです。

本研究科修士課程多文化社会学専攻では、「学問のエレメンツ」と「学問のプラクティス」の学問上における「連携・統合・展開」（理論から応用にいたるプロセスと双方の有機的な連携）を通じて、多文化社会学を〈学〉として深化させるとともに、その修得を図ります。そして、多文化社会学の修得を通じて、文化的他者への理解や共感をベースに、多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、異なる知や人を横断的に繋ぎ、超域的かつ俯瞰的な見地から、21世紀の多文化社会的状況における諸問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことのできる人材の育成を目指します。

学問のエレメンツ（基盤必修科目群）

●人文社会科学



人文社会科学の概念や理論を、学問の土台的基礎（存在論・認識論・方法論）に位置付け直し、各方法論の射程と限界を批判的に検討

● 多文化社会学の深化と修得

専門知の超域的活用の受け皿へと深化させ、方法論としての成熟化を図る。多文化社会学の修得を徹底化

徹底的な専門性の養成

学問のプラクティス

- グローバル・スタディーズ科目群
- 政策科学科目群
- 環海日本長崎学・アジア研究科目群
- 言語多様性科目群
- 核軍縮・不拡散科目群

■ 特色ある少数精鋭教育（専任教員：30名）

新たな学問としての多文化社会学を教員・学生がともに創る

●人文社会科学、自然科学を問わず、存在論・認識論・方法論という学問の哲学的土台を、基盤必修科目群を通じて徹底的に探究

●人文社会科学系が本来有する、基礎的かつ汎用性を持った問題解決能力（批判力・構想力・実践力）を強化

フィールドワークやインターンシップ等、海外での多様な実践の奨励

●文化的かつ言語的他者とのコンタクトやインタラクションを通じた、卓越した語学力や情報収集分析力の涵養

●多様性や環境への認識、文化や他者への共感の深化

世界トップクラスの研究図書館・博物館等との連携

●東洋文庫、国立歴史民俗博物館の特有の専門知を有する研究者からの研究指導、長崎大学東京サテライトとしてサマースクールやセミナーを実施

●アジア・長崎からのグローバル・ヒストリーの捉えなおしを通じた、オリエンタル・スタディーズ分野の世界的リーダーの養成

Pick Up!

【歴史民俗博物館選択科目 総合資料学】

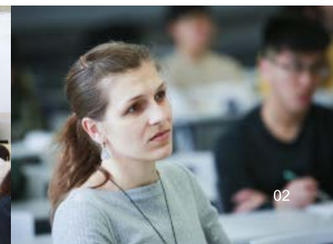
大学・博物館などが持つ資料を多様なかたちで分析・研究する「統合資料学」を、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、9月上旬に4日間の集中講義として開講します。

博物館のありかたや、展示方法およびその背景にある研究成果について総合展示や膨大な収蔵資料・データベースを通して学んだ上で、各自対象とする「もの」資料あるいは事象を選び、専門家の助言を基に総合的に分析し、実際に展示構成のプレゼンテーションを行います。

資料単体では得ることのできない情報をさまざまな視点からアプローチして引き出し、研究的資源として幅広く活用し表現する能力は、歴史学の分野に限らず、人文情報学の知識とスキルとして欠かせないものです。

■ 教育職員免許状の取得について

高等学校教諭一種免許状（英語）を有する者は，本研究科修士課程において所定の単位を修得すれば，高等学校教諭専修免許状（英語）を取得することができます。



多文化社会学研究科カリキュラムマップ

想定する入学者

- ◎人文社会科学系の学部卒業生
- ◎外国語学部・国際系学部卒業生
- ◎理系学部・大学院卒業生
- ◎日本学やアジア研究に関心のある留学生
- ◎環海日本長崎学・アジア研究に関心のある社会人
- ◎高度実践力を伴う専門的職業人を目指す社会人

学問のエレメンツ（12単位）

基盤必修科目群

- 学問のエレメンツⅠ（講義・演習）（2）：人文科学（歴史）
- 学問のエレメンツⅡ（講義・演習）（2）：人文科学（表象）
- 学問のエレメンツⅢ（講義・演習）（2）：社会科学（政治）
- 学問のエレメンツⅣ（講義・演習）（2）：社会科学（社会）
- 学問のエレメンツⅤ（講義・演習）（2）：人文社会科学（文化）
- 学問のエレメンツⅥ（講義・演習）（2）：人文社会科学（宗教）

〈身に付く力〉

- 問題の本質を見極める力
- 専門知の超域的活用のための力

＋

学問のプラクティス（18単位）

- 必修科目「多文化社会学セミナー」2単位を修得
- 主選択した科目群から最低9単位（特講6単位＋演習3単位）を修得

グローバル・スタディーズ科目群

〈身に付く力〉
文化的他者への理解と共感に基づき、異質なものの総合からイノベーションを生み出す批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎民族、宗教、文化、国家の摩擦や対立
◎存在や意味の多様性に対する否定・反動

- 文化表象論特講（2）
- 文化表象論特定演習（1）
- 現代宗教論特講（2）
- 現代宗教論特定演習（1）
- ヨーロッパ社会史特講（2）
- ヨーロッパ社会史特定演習（1）
- アフリカ社会論特講（2）
- アフリカ社会論特定演習（1）
- グローバル社会と脱オリエンタリズム特講（2）
- グローバル社会と脱オリエンタリズム特定演習（1）
- グローバル・ヒストリー特講（2）
- グローバル・ヒストリー特定演習（1）
- カルチュラルスタディーズ特講（2）
- カルチュラルスタディーズ特定演習（1）
- East-West Studies特講（2）
- East-West Studies 特定演習（1）

政策科学科目群

〈身に付く力〉
政策課題やその費用対効果、政策の適切な方法を学び、政策研究や政策分析を行う批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎不均衡な資源分配に伴うリスク拡大
◎政策・制度・規範と人間の安全保障

- 国際ジェンダー論特講（2）
- 国際ジェンダー論特定演習（1）
- 経済開発論特講（2）
- 経済開発論特定演習（1）
- 国際秩序論特講（2）
- 国際秩序論特定演習（1）
- 地域生態論特講（2）
- 地域生態論特定演習（1）
- トランスナショナリティ論特講（2）
- トランスナショナリティ論特定演習（1）
- 多文化家族研究特講（2）
- 多文化家族研究特定演習（1）
- 移民政策と家族・地域・教育特講（2）
- 移民政策と家族・地域・教育特定演習（1）

環海日本長崎学・アジア研究科目群

〈身に付く力〉
ローカルな文脈に分け入りつつ、普遍的次元で展開可能な方法と理論を構築するための批判力・構想力・実践力

[解決を目指す主問題]
◎日本・アジアと世界の交叉・輻輳の中で生じる歴史・文化・社会の問題

- 日本近世史・日蘭交流史特講（2）
- 日本近世史・日蘭交流史特定演習（1）
- 日本儒学・中国学特講（2）
- 日本儒学・中国学特定演習（1）
- 文化遺産論特講（2）
- 文化遺産論特定演習（1）
- 海域交流史特講（2）
- 海域交流史特定演習（1）
- 華僑・華人研究特講（2）
- 華僑・華人研究特定演習（1）
- 現代日本政治外交論特講（2）
- 現代日本政治外交論特定演習（1）
- 現代アジア社会論特講（2）
- 現代アジア社会論特定演習（1）

言語多様性科目群

〈身に付く力〉
言語学の諸分野における知見をもとに、言語の普遍性と個別性に対する理解を深化させ、様々な言語使用場面、コミュニケーション場面やレジスターに対応した表現の精選と英語プログラムの立案、実施、及び英語教育者に指導助言できる実践力

[解決を目指す主問題]
◎コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出やルール革新等、言語が現実構成の基盤にあることの理解の欠如に関わる問題

- 言語学基礎研究特講a（2）
- 言語学基礎研究特講b（2）
- 英語学特講（2）
- 異文化語用論特講（2）
- 第二言語習得研究（2）
- 談話分析特講（2）
- 英語統語論特講（2）
- 言語教育と第二言語習得特講（2）
- 言語理論研究特講（2）
- 言語学特定演習（1）
- 応用言語学特定演習（1）
- 日中対照言語学特定演習（1）
- 日英対照言語学特定演習（1）

核軍縮・不拡散科目群

〈身に付く力〉
核軍縮・不拡散分野において人文社会系と理工系および研究と実務の両側面を兼ね備えた実践力

[解決を目指す主問題]
◎核軍縮・不拡散が未完のプロジェクトであることで生じる人道、安全保障、経済面等の問題

- 核軍縮と国際政治特講（2）
- 核軍縮と国際政治特定演習（1）
- 原子力平和利用と核不拡散特講（2）
- 原子力平和利用と核不拡散特定演習（1）
- 核軍縮交渉の法と政治特講（2）
- 核軍縮交渉の法と政治特定演習（1）
- 核物質管理と核セキュリティ特講（2）
- 核物質管理と核セキュリティ特定演習（1）

文理融合プログラム

【選択科目】東洋文庫選択科目　オリエンタルスタディーズⅠ（2）　オリエンタルスタディーズⅡ（2）　【選択科目】歴史民俗博物館選択科目　総合資料学（2）

【選択科目】海外経験選択科目　海外留学（2）　海外フィールドワーク（2）　海外インターンシップ（2）

【必修科目】　多文化社会学セミナー（2）

＋

研究指導（4単位）

研究指導（4）　主選択した科目群で研究指導を受ける

II

修了要件 34単位

想定される人材像

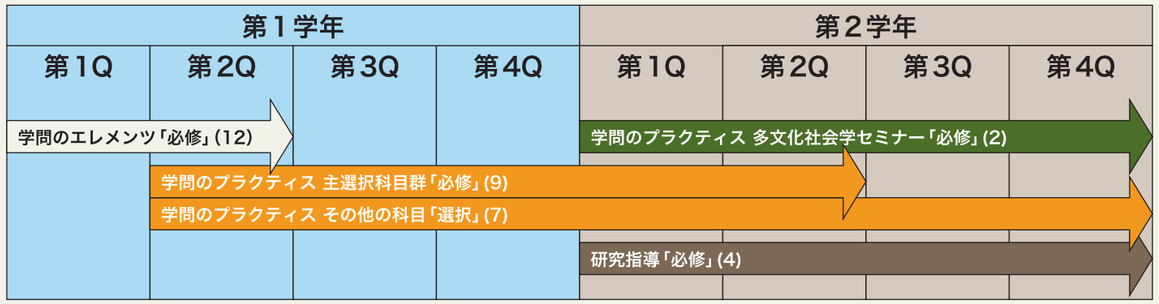
- 商社・食品・製造等のグローバル企業、フェアトレード現地生産者支援スタッフ（関連国際NGO）
- 編集者、記者、社会問題・国際問題のアナリスト
- 文化財担当の地方公務員（文化交流、世界遺産）、発掘専門民間会社
- 文化的背景を持った教育者・通訳者、教育分野における連続的かつ有機的連携に対する、専門的なアドバイス及びプログラム立案・実施に携わる人材
- 国際機関、政府、シンクタンク、NGO等で世界のリーダーとなって、核軍縮・不拡散問題の解決に取り組むことのできる実践力を有した人材

自らの専門性に加えて、超域的に知と人を繋ぎつつ、理解と共生を第一に　問題の発見・説明・予測・解決に取り組む「多文化社会学」を身に付けた人材

（　）内の数字は単位数

■ 標準履修モデル

※（　）内の数字は修得すべき単位数　※海外経験選択科目に対応した柔軟なカリキュラム編成も可能です。



■ 長期履修制度

標準修業年限での修学が困難な事情にある者（①職業を有し，就業している者 ②家事、育児、介護等に従事している者 ③障がいのある者等）については、標準修業年限に納付すべき授業料で標準修業年限の２倍までの履修期間を申し出て認定を受けることができます。

学びを深めるための環境も充実

24時間利用可能な大学院生室

専門書を配架した研究科図書室

少人数での学問のプラクティス科目

多文化社会的状況における諸問題に取り組む在学生の声

Student's Voice

【核軍縮・不拡散科目群】

平和活動の経験と研究科での学びを通して核軍縮・不拡散教育を考える

1年　光岡 華子
MITSUOKA Hanako

私は長崎大学教育学部を卒業し、この多文化社会学研究科に進学しました。学部時代は、それまで関心のあった“平和”について長崎の視点から学び、Peace Caravan隊という団体で、現在の核問題にもフォーカスした平和出前講座を各地で行ってきました。より多くの人に核の問題は今の問題であり、私たち自身の問題であると捉え、考えてもらえるように励み、教育者、発信者となることの意義を体感しました。

しかし、活動を重ねていく中で「核兵器はなぜダメなのか」「どうすれば廃絶できるのか」という問いに対する自分の考えの浅はかさを痛感しました。大学院への進学を決意したのは、自分が当然のように受け止めていることを問い直し、深める機会が必要だと思ったからです。

これまで活動的に過ごしてきた私にとって、大学院での答えのない問いに向き合い考える時間は、新鮮でとても楽しいです。学部時代の経験と、これからの学びを活かして、研究テーマである「被爆者なき世界の核軍縮・不拡散教育の在り方」について国際比較を通して研究していきたいと思います。

Student's Voice

【政策科学科目群】

日中のかけ橋となり両国間の理解・交流に力を尽くしたい

2年　馬 継銘
MA Jiming

私は、中国から日本へ留学し、日本語学校での勉強を経て、多文化社会学研究科へ入学しました。学部ではジャーナリズムを専攻し、編集者・記者の仕事を目指しています。この研究科では日本、中国などのアジア諸国だけではなく、世界中の様々な国が研究対象であり、私たちの社会では「当たり前」のことを再考しています。これは編集者・記者にとって必要不可欠なことだと考えています。

この研究科では、自分の専門分野以外も学べます。昨年は，国立歴史民俗博物館で開講された「総合資料学」を受講しました。博物館の先生が分かりやすい事例で教えてくださいますので、歴史が専門でなくても気軽に受講できます。「総合資料学」はある分野・学問について研究するのではなく、多様な学問を統合した上の学問なので、どんな分野を研究する人にとっても役に立つと思います。

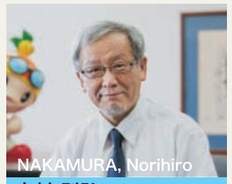
現在は、中国のネットにおける市民社会について研究しています。日本、そして長崎にいるからこそ発見できる問題が必ずあると思います。卒業後は日中のかけ橋となり、両国間の理解・交流のために力を尽くすメディアの一員として働きたいと考えています。

知識と経験を深化させる教員との出会い

各教員のプロフィールや研究テーマについて詳しくはホームページをご覧下さい。

GUELBEYAZ, Abdurrahman
ギュルベヤズ アブドゥルラッハマン 准教授
[カルチュラルスタディーズ特講]
◎記号論、文化理論

SUZUKI, Akiyoshi
鈴木 章能 教授
[East-West Studies特講]
◎比較文学、英米・英語圏文学


NAKAMURA, Norihiro
中村 則弘 教授
[グローバル社会と脱オリエンタリズム特講]
◎国際社会学、社会変動論

HAYANAGI, Kazunori
葉柳 和則 教授
[文化表象論特講]
◎文化表象論、文化社会学

MASAMOTO, Shinobu
正本 忍 教授
[ヨーロッパ社会史特講]
◎フランス近世史、社会史

TAKIZAWA, Katsuhiko
滝澤 克彦 准教授
[現代宗教論特講]
◎宗教学、モンゴル研究

MORIKAWA, Yuji
森川 裕二 教授
[国際秩序論特講]
◎国際政治学、東アジア国際関係

KOMATSU, Satoru
小松 悟 准教授
[経済開発論特講]
◎開発経済学、環境経済学

SAIHANJUNA
賽漢卓娜 准教授
[多文化家族研究特講]
◎家族社会学、移民研究

HAZAMA, Itsuhiro
波佐間 逸博 准教授
[地域生態論特講]
◎文化人類学、アフリカ研究

MINAMI, Makoto
南 誠 准教授
[トランスナショナリティ論特講]
◎歴史社会学、国際社会学

MIHARA, Reiko
見原 礼子 准教授
[移民政策と家族・地域・教育特講]
◎教育社会学、比較教育学

KIMURA, Naoki
木村 直樹 教授
[日本近世史・日蘭交流史特講]
◎日本近世史、交流史

SHUTO, Toshikazu
首藤 明和 教授
[現代アジア社会論特講]
◎社会学、アジア社会論

NOGAMI, Takenori
野上 建紀 教授
[海域交流史特講]
◎水中考古学、海上交易史

REN, Seikichi
連 清吉 教授
[日本儒学・中国学特講]
◎中国思想、日本近代中国学

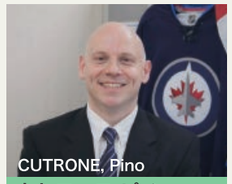
WANG, Wei
王 維 教授
[華僑・華人研究特講]
◎移民／マイノリティ研究

COMPEL, Radomir
コンペル ラドミール 准教授
[現代日本政治外交論特講]
◎比較政治学、日本政治史

SAITSU, Yumiko
才津 祐美子 准教授
[文化遺産論特講]
◎民俗学、文化資源論

NISHIHARA, Toshiaki
西原 俊明 教授
[言語学基礎研究特講a]
◎コーパス言語学、応用言語学

YANG, Xiaoan
楊 暁安 教授
[言語学基礎研究特講b]
◎実験音声学、統語論


CUTRONE, Pino
カトローニ ピノ 准教授
[異文化語用論特講]
◎応用言語学、語用論

TANIGAWA, Shin-ichi
谷川 晋一 准教授
[英語統語論特講]
◎生成統語論、理論言語論

SUZUKI, Tatsujiro
鈴木 達治郎 教授
[原子力平和利用と核不拡散特講]
◎原子力平和利用、核軍縮・核不拡散

YOSHIDA, Fumihiko
吉田 文彦 教授
[核軍縮と国際政治特講]
◎核軍縮・核不拡散、軍備管理条約

AZUMA, Fumihiko
東 史彦 准教授
◎EU法学、国際経済法学

SHIRAI, Shoji
白井 章詞 准教授
[海外インターンシップ]
◎キャリア教育

HARADA, Souichirou
原田 走一郎 准教授
◎方言学、記述言語学

HOSODA, Naomi
細田 尚美 准教授
◎文化人類学、移民研究

MORI, Motonao
森 元斎 准教授
◎哲学、現代思想

[　　]：主な開講科目名
◎：主な研究テーマ
※科目名は変更となる可能性があります。